

ガムラン、獅子舞 多文化理解 文化芸大 国際センター開設記念演奏



ガムランに合わせバリ舞踊を披露する学生ら
浜松市中央区中央の静岡文化芸術大で

浜松市中央区中央の静岡文化芸術大で、芸術文化を学ぶ生徒と留学生らによる「ガムラン音楽（インドネシア）と獅子舞（中国）」

があった。今年4月に多文化理解促進などを目的に設置された国際交流センターの開設記念。学生と留学生ら約30人がステージに立った。

インドネシアの民族音楽「ガムラン」でスタート。芸術文化学科の1年生と授業を担当する梅田英春教授が複数の打楽器を打ち鳴らし、独特の世界観を作り出した。ガムランの音色に合わせ、バリ舞踊も披露。バリに留学し現地の踊りを学んだという同大院生の森下千裕さん(28)を中心に、指先をヒラヒラと動かし、滑らかに舞った。

ガムランを奏でた佐藤和花さん(18)は、音楽や踊りにはその土地の特性が現れることを学んだという。

「ういう学びを増やしていきたい」と意気込んだ。

ステージの後半には中国獅子舞も演じられた。学生2人が操る黄色くキラキラ輝く獅子が登場すると、観客は盛んにシャッターを押し、獅子はガムランの伴奏に合わせて、かわいくまばたきしたり、勇猛に足踏みしたりした。

獅子は、国際交流センター設立のお祝いとして、中国の浙大城市学院が、静岡文化芸術大の崔学松准教授の研究室を通じて同センターに寄贈。浙大城市学院からの留学生チン・オー・シンさん(21)が動きを指導したという。チンさんは「両校の交流が、世界の文化交流に寄与すると思う」と語った。(東田茉莉瑛)